

株式会社 JCN 武蔵野三鷹

平成 24 年度 第十回放送番組審議会 議事録

開催日時：平成 25 年 1 月 24 日（木）11：00～12：00

開催場所：セコム SC センター 3 階第 2 会議室

出席者：

<番組審議委員>

見城武秀委員 西海真理委員 岡崎昌史委員 河野康之委員 樋爪泰平委員 新井正樹委員 塚本真史委員

<株式会社 JCN 武蔵野三鷹（以下 MM と略）>

妻井英夫社長 清水正康常務取締役 長岡孝治取締役 金子俊治監査役 八代誠顧問 角田雄二郎企画制作部部長 山田佐智子企画制作部部長代理 岡崎文生企画制作部マネージャー

<ジャパンケーブルネット株式会社（以下 JCN と略）>

荻野雅也東京西エリア室室長

欠席者：牧野洋子委員 大久保康雄委員

書記：企画制作部 上遠野

資料：

「2012 年度 JCN 武蔵野三鷹 コミュニティチャンネルの取り組み／新番組概況」

「2012 年度 JCN 武蔵野三鷹 その他局番組概況」

「新しいコミュニティチャンネル「にっぽんケーブルチャンネル」の放送開始について」

「2012 下期 東京西エリア番組」

1 【開会の挨拶】

司会 山田佐智子企画制作部部長代理

2 【社長挨拶】

前年 6 月に社長をはじめとした役員交代を行い、10 月には社名も変更した。この秋に J：COM との統合を控えているが地域密着を進めるという方向性には変更がない。また、局としての対応も当分は変わらないので引き続きご支援をお願いしたい。

3 【議事】

(1) コミュニティチャンネルの取組

◆角田企画制作部部長より、「2012 年度 JCN 武蔵野三鷹 コミュニティチャンネルの取り組み」の資料に従い、制作方針の説明。

◆岡崎企画制作部マネージャーより、「2012 年度 JCN 武蔵野三鷹 新番組概況」の資料に従い、10 月から開始した以下 5 番組の紹介および、ダイジェスト版映像の放映視聴。

- ・デイリー武蔵野三鷹（リニューアル）
- ・FC東京ゴールデンサポーターズ
- ・まるっと！！地元情報局
- ・むさしのみたかミッドナイトシアター
- ・武蔵野三鷹スポーツ&カルチャー紹介番組 スポカル！

◆JCN荻野東京西エリア室長より、「新しいコミュニティチャンネル「にっぽんケーブルチャンネル」の放送開始について」の資料に従い、本部・エリア・局の三段階制作体制についての説明および「にっぽんケーブルチャンネル」の番組紹介。

（2）質疑応答

- ・番組モニター会議について、開催頻度、出席者、選定方法等を教えてほしい。
 - ⇒公募により選出された、30代～50代までの13名が構成メンバー。番組のみならずMMが提供するサービス全般についての意見をうかがっている。月一回のアンケート提出と年に一度の会議を行っている。
- ・基本的な加入状況のデータを教えてほしい。
 - ⇒有料加入世帯に限れば、テレビが約4万世帯。インターネットが約3万世帯。電話が約2.5万世帯。コミュニティチャンネルを視聴できる接続世帯は約13万世帯にのぼる。
- ・サービス加入状況は順調か？
 - ⇒有料多チャンネル放送の契約数は頭打ちになっている。インターネットを電話は順調に推移している。MMの加入率は約25%とJCNグループ内でも高い。
- ・番組数が増えたが、制作スタッフは増員したのか？
 - ⇒従来の5人から、管理1名を含む8名へ増員したが、これ以上の人員増は厳しい。今後は、制作した番組をどうやって見てもらうかが一番の課題だと考えている。

（3）各委員の意見

- ・コミュニティチャンネルが本数内容ともに徐々に充実してきていると感じる。ただし、本部制作・エリア制作・局制作のバランスが損なわれないようにし、開局以来地域情報の提供に力を入れてきた実績を守っていただきたい。また、経営統合により業務効率化が進むと、番組制作のコストは相対的に高くなっていくと思うが注力し続けてほしい。行政やFMむさしとの連携は一市民としても有難いものだが、非常時にどのような情報を市民が求めているかについては平時からよく検討し、「ケーブルテレビがあつてよかった」と市民に思われるような体制作りを進めていっていただきたい。
- ・開局からすでに20年ほど経過していることと思うので、映像のアーカイブ化にも力を注いでほしい。たとえば武蔵野プレイスにも地域アーカイブが整備されているなどの動きがあり、MMが蓄積している映像も地域の宝として整備に取り組んでいただきたい。
- ・これだけの番組量では、取材内容が市民テレビ等と重なることが気になるが、同じ題材であってもそれぞれで切り口が異なるのでよい。デイリー更新の番組は市民テレビでは行えないので新鮮な情報の発信をぜひこれからもMMにお願いしたい。被災地支援の観点では、現地にいる人間に情報が伝わらないことが多いのでなんらかの形で市民テレビとMMとでパイプをつないで取り組みたいと思う。
- ・インターネットとテレビの融合が進み、既に情報をどこから経由して視聴するかは問題ではなくなっている。ケーブルテレビもインターネットでの動画配信など検討していただきたい。
- ・東日本大震災以降安心安全への関心が強まり、ケーブルテレビが有効なメディアであることが実証された。

2月に三鷹市と連携して行う防災訓練ではこの効果が実証されることと期待している。三鷹南口にはいよいよライブカメラも設置され、非常時に駅前の状況を知ることができるようになる良い取り組みである。総務省平成24年度ICTまちづくり事業に全国5団体の事業が採択され、三鷹市のケーブルテレビと連携した速やかな情報伝達の提案もそのうちのひとつである。また、今年度は三鷹市シルバー人材センターが各メディアで取り上げられ評判になったが、MMがプラットフォームを解放したことで市民活動を育てたという良い事例であった。

・J：COMとの経営統合によって地域から離れていくことを心配していたが、コミュニティチャンネルの番組を視聴して安心した。緊急時の連絡伝達の観点では、平時から毎日コミュニティチャンネル視聴してもらっていることが大事であり、魅力ある番組作りはそのために非常に有効である。

・毎日7:00と8:00から20分間、むさしのFMのラジオ放送をMMのコミュニティチャンネルで放送するという取り組みを行っている。また、月に一度は実務者会議を行っている。今日のみなさんの期待を聞き、声に応えたいと思った。また次回この場で取り組みを発表したい。

・事後の放送より事前のPRがもっと多くなればよい。来年3月末完成をめどに吉祥寺駅舎のバリアフリー化と京王ビルの建て替えおよび南北自由通路の開通という大事業を進めているので、取材をお願いしたい。吉祥寺駅前で3月に帰宅困難者想定避難訓練を行う予定だが、スピーカー放送が商店街域には聞こえないことからFMで音声を流すので、ケーブルテレビの映像も街頭で見られるようにしてほしい。いくつか候補地もあるので、吉祥寺活性委員会が間に入って調整を行うので検討をお願いしたい。

以上をもって、平成24年度、第十回番組審議委員会は終了した。